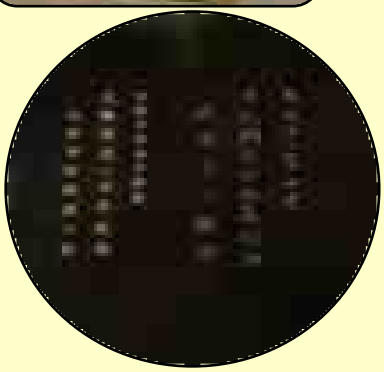
大光寺だより
# かがやき

発行
寂静山　大光寺
住職　藤範雅史

## 常香盤を修復していただきました

本年お迎えしている親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年を記念して大光寺仏教婦人会の皆様に常香盤（じょうこうばん）を修復していただきました。

「かがやき」第7号でも書かせていただきましたが、常香盤とは常に香を薫じておく盤のことで、大光寺では5月の親鸞聖人降誕会の後から、10月の親鸞聖人報恩講までの夏の間、本堂に荘厳される仏具です。



100年前の立教開宗700年を記念して当時の尼講（仏教婦人会の前身）が大光寺に寄進してくださいました。大切に使わせていただいていたのですが、破損や汚損が著しく、この度修復していただき、その輝きを取り戻しました。100年200年先もお念仏の教えが続く限り大切に使わせていただきます。ありがとうございました。

## 親鸞聖人御誕生850年 立教開宗800年慶讃法要に参拝してきました

4月25日(水)伊那組寺院のご住職やご門徒の皆様と宗祖親鸞聖人の御誕生850年立教開宗800年の法要に参拝してきました。いつもであれば全てのご門徒の皆様に法要参拝のご案内をし、100人単位でお参りをさせていただくのですが、コロナ禍での参拝者募集でもあったため、ご門徒の皆様にはご案内を控えさせていただき、お寺の役員(門徒総代や世話人、婦人会等)で皆様を代表してお参りいただきました。個人で参拝いただいた方もいらっしゃったことと存じます。ご縁が整えばまたご門徒の皆様と一緒にお参りさせていただきたいと思います。

# 教えて住職！

## 家族葬と一般葬について。香典のお話。

臨終のおつとめが終わりますと、一息つく暇もありません。遺族にとっては葬儀社との打ち合わせが多岐にわたります。施主は誰が勤めるか。通夜・葬儀をどのように勤めるか。参列者は何人くらい予想するか。全体的な予算をどうするか。家族葬にするか否か等、大切な方を亡くし、気が動転する中で冷静な判断が求められます。

ここで「かがやき」を読んでいただいているみなさまに住職からの問いかけをしてみたいと思います。

**皆さんは「家族葬」についてどう思いますか？**

善悪の問題ではありません。

私なりに家族葬について考えてみました。

「家族葬」の対義語は「一般葬」になるのでしょうか。一般的に家族葬とは、家族だけ、またはごく近い親族で営まれる葬儀のことを言うそうです。それに対して一般葬とは、会社関係・友人・ご近所等、会葬者の範囲を限らず行う葬儀のことを言うそうです。

昨年お亡くなりになられた安倍晋三元総理の葬儀（国葬の方ではありません）を思い出していただきたいのですが、東京の増上寺で、家族葬として営まれました。お通夜には首相ら政界や経済界、外国の要人のほか、一般の人も含め約２５００人が参列されたそうです。これがはたして「家族葬」と呼べるものなのでしょうか。

家族葬を行おうとする家族の考えは様々です。予算の問題。亡くなってなお周りの方々にお越しいただくのはかえってご迷惑なのではないか、忍びない等々。

家族葬を行ったご家族に聞いたお話の一例として、「『亡くなったことを知らなかった。』『お別れの言葉を掛けたかった。』と、お叱りを受けた」り、「後から知った方が、いきなり自宅へ弔問に来られ、その都度の応対が必要で気を遣った。」といった声を聞いたりします。

生きている間も周りの方々に迷惑をかけなければ生きていけないのが私たち人間です。ただ、周りの人の多くは「迷惑」と考えておらず、ご縁あった方の最後のお見送りをしたい。と考える方が多くいることを忘れてはいけないと思います。人生最後の葬送儀礼は生前ご縁をいただいた方々が弔問できる「一般葬」と呼ばれる形が望ましいのかなと私は考えます。読者の皆様はいかがでしょうか。

ちなみに「密葬」というのがありますが、これを家族葬と勘違いされている方がおられます。密葬は本葬や社葬に先立って、家族が葬送を営むことであって、本葬の折にその家族が、参列いただいた方をもてなしていると故人を偲んでいる暇がないことから密葬を勤めます。ですので密葬の後には必ず本葬や社葬が勤められますので勘違いされませんようご注意願います。

## 香典のお話

さて、近年通夜や葬儀に参列しても香典を受け取ってもらえないという声をよく耳にします。ご遺族からすれば香典を受け取らない理由は様々あるようです。例えば、

①「亡くなった人だけでなく、喪主も加齢とともに人付き合いが減っている。参列者も少ないし、大きな葬儀にはしないので香典辞退というかたちにしたい」
②「香典返しの手間が減る」
③「参列者に負担をかけたくない」
④「金銭的な助けを受けたくないという、気持ちの問題」
⑤「最近知り合いの通夜・葬儀に行っても香典辞退をしていたから右へならえ」

等理由はいろいろあるようです。

しかし、このような理由を表立って表明するとカドが立ちますから、「故人の遺志」という形で看板を立てて参列者に理解してもらおうと考えたのでしょう。悪く言えば”死人に口なし”です。が、中には生前中から「自分の葬儀のときにはできるだけお金をかけてほしくない。香典などもまったくいらない」という意思表明をしている人もいますので、すべて①～⑤の理由ではないということは忘れてはいけないのでしょう。

そもそも香典って何なんだろう？なぜ人がお亡くなりになったら香典を包むのでしょう？ここから考えていかないと受け取る側も包む側もただ体裁だけになってしまいかねません。

香典の本来の意味については上のコラムに書いた通りです。これを理解いただければ「香典辞退」等ということは起こらないとは思うのですが、それでも辞退される場合には何らかの理由があるのかと思います。

故人との関係上どうしても香典を供えたいという方にはこういう方法はいかがでしょうか。

①通夜・葬儀の時ではなく、葬儀が終わって満中陰(四十九日)までの間に直接自宅に持参する。

②香典本来の意味に立ち返り、通夜・葬儀の際、現金ではなく御香を持っていく。

私は②の方法でいつも香典をお渡ししています。当初現金をお包みして持って行っていましたが頑なに辞退されたことがありました。が、御香をお渡しすると「香典」と思っていないのかどうかはわかりませんが、必ずと言っていいほど受け取っていただけます。

しかしご注意を！

香典と思っていないかどうかわからないと書きましたが、その理由は・・・

これまで私は100件以上の遺族に「御香典」として現金ではなく、現金をお包みしていた時と同じ金額の上質な御香をお渡しさせていただいておりますが、遺族が御香を香典と理解して香典返しをいただいた家は数件しかありません。期待してはいけませんし、失礼な家だなと思ってもいけません。

**故人に対する哀悼の意を表してお渡しさせていただきましょう。**

## 香典(奠)とは

香典について広辞苑には「死者の霊に供する香に代える金銭」とあります。

人の命は老少を問わず、いつその時が訪れるかはわかりません。本来は「お香」を供えるべきでありますが、ご縁ある方が亡くなられたという訃報は突然やってきます。

その時にお香を準備する時間がないので、通夜・葬儀の際に金銭を包み尊前にお供えするのが香典です。香典として現金を包むのは、あくまでも御香の代わりです。ですから香典は故人や仏さまへお供えする「お香代」（参列者←故人・仏さま）であって、葬儀の費用負担（参列者←遺族）ではありません。遺族は香典を預かり、上質なお香を御仏前にお供えさせていただくべきと考えます。

ちなみに「御香奠」と書く場合がありますが、「奠」は「典」の旧字体ですので、どちらでも構いません。

# 院号について

前回号で、院号については「かがやき」の第3号をご覧ください。と書いたところ、もうすでに「かがやき」をどこかにやってしまった方や、そもそも貰っていないという方がおられましたので、院号についてもう一度書いてみたいと思います。重複する部分もございますのでご了承ください。

院号とは、「院」を最後に付ける称号です。「院」とは「垣根をめぐらせた大きな建物」を指す言葉で、もともとは天皇の退位後の住まいの呼び名でした。

平安時代初期に嵯峨天皇が譲位し上皇となって出家した後、嵯峨院という寺院を造営し移り住み、自ら「嵯峨院」と称するようになります。その後、各宗派で戒名や法名の上に院号を冠して用いることが一般化していきました。本願寺では、蓮如上人が「信証院」と称されたことに始まるとされています。

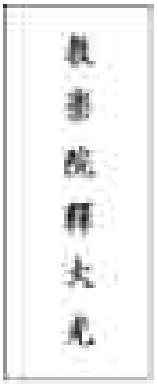
現在では、宗門の護持発展に貢献された方、または、宗門もしくは社会に対する功労が顕著であると認められた方に「〇〇院」という院号が宗門より授与されます。

本願寺では、永代経懇志（お金による布施、寄付）などをされた方に、お扱い（お礼の品）のひとつとして、希望者に院号が下付されております。

具体的には、二〇万円以上の懇志を進納された方に対し、金額に応じてお礼の記念品を数種用意していますが、そのひとつが「院号」です。

つまり、浄土真宗の「法名」や「院号」は、お金で買うものではないのです。

永代経懇志とは、み教えが永代経対象者（故人または懇志進納者本人等）をご縁に、本願寺、大谷本廟において伝えられていくことを願うことから、ご進納いただく懇志であります。末永い宗門の発展を願って納めるものであって、故人への供養とか法名をグレードアップさせる為のものではありません。法名の上に載せられるために、法名と院号は、「一体化」しているように思われていますが、このように法名と院号はまったく「別物」です。



永代経懇志につきましては、所定の申請手続きが必要となりますので、お問い合わせください。

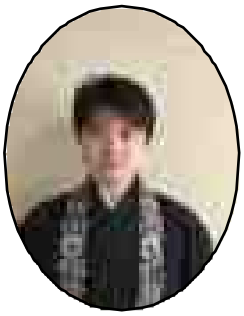
当寺院では、院号にかかる費用はいただいておりません。懇志は全て宗派（浄土真宗本願寺派）または本山（本願寺）に進納させていただきます。

故人に院号をつけるかどうか悩んだ場合の一つの基準として、多くの方は「故人の生前のご苦労を偲び、感謝の気持ちを持って院号をつけさせていただく」事が多いようです。お葬式にどれほど費用をかけてもその時だけですが、院号は末代まで伝え残されます。故人への感謝の気持ち、御遺徳を讃えたいという遺族の思いが末代まで伝わります。

二〇万円以上と書きましたが、後々西本願寺へお参りされる場合は、三〇万円以上の進納がおすすめです。理由は、本願寺からのお礼が変わります。二〇万円のご進納のお扱いは、「院号・式章」ですが、三〇万円以上になると、「院号・式章」に加え「国宝のお堂で家族のみでの開闢法要・国宝書院での御斎（精進料理）」が御礼として加わります。特に国宝の書院は通常非公開の建物ですので特におすすめです。

院号は生前でもいただくことができますので、ご希望の方は住職までご相談ください。

北海道の名和先生から仏さまのお話（法話）を寄稿いただきました。



北海道三笠市
善行寺住職
本願寺派布教使

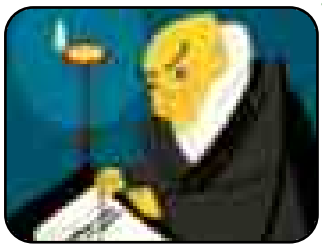
# 「出遇う」（であう）ということ

先日、広島県の布教使さんから、ある男性のご門徒さんのお話を聞きました。その男性が高校生だった頃、家計の足しにとアルバイトをされていた時のお話でした。その仕事は、アルバイト先の会社のお金を運ぶというものでした。しかしある日、あろうことかそのお金を落としてしまったのです。当時のお金で二十七万円。戦後間もないころの話なので、今の価値に直すと、数百万円といったところでしょうか。すぐに警察に届け出て、会社に戻り、社長に報告していたところ、間もなく警察から「お金が見つかった、届けられました」との連絡が入りました。急いで警察署に飛び戻り、お金を受け取った男性は、「どなたが届けてくださったのか、お礼をいいたい」と警察官に尋ねたところ、拾い主は「お礼はいらない」と言っていたと聞かされます。落としたのは学生と聞き、お礼などされたら、アルバイトをしている意味がなくなるだろうと、帰っていかれたそうです。しかし何としてもお礼を言いたいと思ったその男性は警察官に名前を聞き、その方の自宅を訪ねたのだそうです。すると、お金の拾い主は、原爆の傷跡がまだまだ残る地域の、バラック（粗末な小屋）に住んでいる方で、女性の方であったそうです。ご主人は戦死されていて、三人の子どもを育てるために日雇いの仕事をされている「お母さん」でした。その日は仕事を探しにいったものの、見つからず、とぼとぼと帰っていたところ、その二十七万円を拾ったのでした。喉から手が出るほど欲しかったお金。しかしお母さんは一切手をつけることなく警察に届けたのでした。それどころか、学生さんが困っているだろうと、お礼すら受け取らないと言った女性。その出来事以来、その男性は、社会人となった後も、色々な方と関わる中で、時に「ずるい」心が起きた折には、そのたびに、そのお母さんの姿が思い起こされたそうです。そのお母さんの生き様に随分影響を受けたとのことでした。

一緒にお礼を言いに行ったアルバイト先の社長さんもとても感銘を受け、三人のお子さんに靴をプレゼントしたいと、三年間、毎年、その子達の靴のサイズを尋ね、送られたのだそうです。社長さんが、そのように恩を返される姿にもずいぶん影響を受けたのだと、そのご門徒の男性の方は言い、「その子達がもし生きているのであれば、新聞に投書して呼びかけてでも会いたい。あなたたちのお母さんに助けられたんだということを、その子達に伝えたい」と話されたのだそうです。

人は出遇いによって、その人生が大きく左右されます。たとえ貧しくとも誠実に生きるその母親と、その誠実さに応えようとされる社長さんの姿。もしそのお二人との出遇いがなければ、男性の人生は全く違ったものになったかもしれません。顔を合わせるだけでなく、その方の心に触れてこそ、そこに「本当の出遇い」があるのです。そして心豊かに生きるその人の心は、それに触れた人の人生にも彩りを与えるのです。大事なのは「どのような方に出遇って生きるか」ということなのでしょう。

親鸞聖人は阿弥陀さまに「出遇う」とは、そのお心をお聞かせいただくことだと教えてくださっています。ものごとのありのままをご覧になる智慧と、すべての命を慈しむ慈悲のお心に触れつつ、苦難の人生を、心強く、色鮮やかに生ききっていかれた方が、親鸞聖人という方だったのです。



# 東日本大震災13回忌法要

令和5年3月11日は東日本大震災から12年となり、13回忌を迎える年となりました。

私が活動する「震災支援を続ける会」は、コロナ禍でなかなか現地に行くことができなかったのですが、この度3年4ヵ月ぶりに3月9日から11日にかけて、岩手県陸前高田市と宮城県亘理町に行かせていただきました。

3月9日は移動日、10日には岩手県陸前高田市の今泉地区コミュニティセンターで「たこ焼き交流会&おしゃべりサロン」を開催し、210食分のたこ焼きを振舞いながらの交流会を行いました。

たこ焼きを焼く住職と仲間たち

岩手県陸前高田市は、今年WBCでも活躍した佐々木朗希投手の故郷であり、彼自身もまた震災でお父様と祖父母を津波で亡くされています。

当日は、3月とは思えないくらいとても暖かく、たこ焼きを焼いていると地域の方々がたくさんお越しくださいました。中には初めてたこ焼きを食べるという小さいお子様も足を運んでくれ、賑やかに過ごすことができました。震災当初ボランティアに行ったときは、当然のように会員のメンバーだけで活動をしていたのですが、5年目くらいからは地域の女性協(陸前高田市女性連絡協議会)の方々もお手伝いをしてくださるようになり、一緒にたこ焼きを焼いたり、振る舞いをしてくださったりと活躍してくれています。

防潮堤の上から海を眺める

震災以降、市の沿岸部には津波が来た際に避難する時間を少しでも稼げるようにと高さ12メートルの防潮堤が作られました。その一区画には道の駅が作られ、すぐ近くには「奇跡の一本松」があり、道の駅の同じ敷地内に「東日本大震災津波伝承館」が併設され、被災した消防車や津波の恐ろしさを伝える写真、被災者の体験を書いた作文等が展示されています。

陸前高田市の町並みは綺麗になりました。道路は新しくなり、市街地は4メートルかさ上げされ、お店も少しずつ増えてきています。でも津波でさらわれた後の更地が今でも多く残っています。12年という歳月は住んでいた方の故郷を変え、生活を一変させ、それが今でも続いている。関西に住んでいるとなかなかわからないことがたくさんありました。この日はお昼の2時頃まで滞在し、皆様とまた帰ってくる約束をして陸前高田を後にして、次の目的地である宮城県亘理町に向かいました。

震災支援を続ける会のメンバーと陸前高田市女性協の皆さん

宮城県亘理町に荒浜という場所があります。この場所でも多くの方がお亡くなりになり、現在は慰霊の石碑が建てられています。当日はこの荒浜で音楽フェスや、たこ焼き交流会など様々なイベントが開催され、地域住民をはじめ全国各地から多くの方々が参加されました。この日も私たちはたこ焼き210食分を提供し、午後2時から「東日本大震災13回忌追悼法要」をお勤めしました。その後地震のあった2時46分に街中にサイレンが鳴り、黙とう。

小さな子どもを追いかける両親、一人海を見つめて佇む人、涙を流しながらお焼香をする人、様々に想いがあることを教えていただきました。左下の概要にあるように、現在も2千500人以上の方が行方不明となっています。

震災から12年が経過し、街並みは整えられつつありますが、被災された皆さまの悲しみや傷み、苦悩は消えることはないかも知れません。

しかし、震災を通じて多くの人たちと出遇わせていただき、繋がることができたのは、尊いご縁と受け止めさせていただいております。お釈迦さまは、

**人は愛と欲望の世間の中にあって**
**独り生まれ　独り死し**
**独り去り　独り来る**

と仰せになり、人のいのちは究極のところ独りであることを教えてくださいました。

かたや、縁起の法を説き、全てのいのちが関係しあい、支え支えられながら生きること。すなわち生かされて生きているいのちであることも明らかにされました。

13回忌追悼法要の様子

活動の内容もニーズも変わっていきますが、これからも何らかの形で継続していきたいと思います。「震災支援を続ける会」の私たちの思いは、被災された方々の苦悩に寄り添うことは出来ないかも知れません。でも、これからも　被災の事実と現実を忘れずに関わり続けていきたい。同じいのちを生きる者として共に生きて往きたいと思っています。

亘理町で活動した「震災支援を続ける会」のメンバー

# 永代納骨（合祀）墓があります

令和3年1月、大光寺の境内地（敷地内）に永代納骨（合祀）墓が出来ました。

近年増えてきた「墓じまい」後の御遺骨の埋葬や、新たにお墓を建立しない等様々な事情でお墓を持たない方等。

詳細はお寺までお問い合わせください。

◎納骨懇志（御布施）

・大光寺門徒　1体につき15万円以上

・大光寺門徒以外の方　1体につき20万円以上

# お寺の法要にお参りください

お寺の法要へのお参りは浄土真宗門徒、大光寺にご縁のある全ての方々の大切な営みです。先人の言葉に「1日1度は家庭のお仏壇にお参りしましょう。月に1度は手次の寺にお参りしましょう。年に1度は本山本願寺にお参りしましょう。」とお勧めくださっています。

特に報恩講には必ずお参りしましょう。

## お寺の法要・行事予定

| | | 大光寺 | 教楽寺 |
|---|---|---|---|
| ・8月13日 | 盂蘭盆会 | 午前10時 | |
| ・9月22日 | 秋季彼岸会 | 午前10時 | 午後2時 |
| ・10月19日 | おみがき | 午後2時 | 午前9時 |
| ・10月24日 | 親鸞聖人報恩講 | 午前10時 | 午後2時 |
| ・12月31日 | 除夜の鐘 | 午後11時半頃 | |
| ・1月2日 | お正月のお勤め | 午前10時 | |

# 役員変更のお知らせ

今般、左記のとおり役員が変更となりましたのでお知らせいたします。

## 教楽寺

**※責任役員**
寺本　忠行（変更なし）
北本　一美（新任）

**※門徒総代**
北本　一美（変更なし）
田中　小夜子（変更なし）
阪本　美澄子（変更なし）

## 教楽寺門徒

・大西　美男
・北本　貞代
・久保　孝
・谷口　和宏
・谷口　友治
・西岡　シナ子
・藤本　悦子
・林　ミヨ子
・福園　フヂ子
・福塚　章高
・南口　ミサヱ
・吉井　リツヨ

（敬称略・50音順）

# 敬弔

昨年6月1日から本年3月31日までに、左記の方がご逝去されました。生前のご遺徳を偲び謹んで哀悼の意を表します。

## 大光寺門徒

・北邨　和子
・楠本　剛司
・小林　成美
・阪口　貞代
・高岡　悦子
・谷川　稔
・玉井　枝美子
・西本　アヤ子
・野口　弘己

# 新型コロナウイルス感染症への対応について

承知のように、政府は新型コロナウイルス感染症の感染症法の分類を、5月8日に2類相当から5類に移行しました。

これに伴い、大光寺でも従来ご門徒の皆様に感染対策をお願いしていましたが、次のように変更いたします。

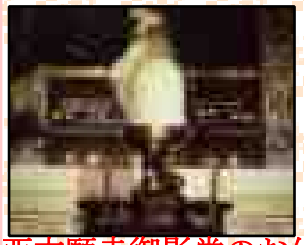
【これから】
・マスクの着用は任意
・適度な換気のお願い
・経本の貸し出しの再開
・人と人との適切な距離感覚の維持
・一緒にお勤めしましょう

# ちょっと小話（お仏飯編）

色々なご家庭にお参りにお伺いさせていただきますと、お仏壇のお飾りの中で一番目立つのがお仏飯（ぶっぱん）です。お仏飯の盛り付け方で悩んだことはありませんか？今回はお仏飯の盛り付け方をご紹介します。お仏飯は、仏さまの世界に咲き誇る蓮の花をかたどって盛り付けるものとされています。浄土真宗（西本願寺）では、蓮の花の蕾（つぼみ）型に盛り付けます。盛り付けのコツは、ガチャガチャのカプセルやお酒を飲むおちょこにご飯を入れて、くるっとひっくり返すとそれなりの形になります。後はしゃもじで少し形を整えます。

本山本願寺の御影堂、親鸞聖人の御真影様の前に供えられるお仏飯は1つでなんと2升以上。大切なことは、お仏飯はお供えして下げたら必ず食べることです。そのまま捨ててしまったり、カピカピになるまで供えっぱなしではいけません。

参考までに東本願寺では蓮の実型に盛り付けをします。形は少し違いますが、その原型は蓮であることに変わりはありません。



西本願寺御影堂のお仏飯
これ1つで2升以上あります

大光寺のお仏飯

# おみがき

おみがきって聞いたことはありますか？仏具磨きのことをおみがきと言います。大光寺では8ページ下蘭にある日におみがきをしています。1年間の感謝を込めて仏さまのお道具「仏具」をピカピカにします。この時、各家庭にある仏具を持ってきていただきましたらお寺の仏具と共に磨きましょう。綺麗に磨くのは真鍮製の仏具です。お鈴や輪灯、仏飯器など、洗濯ネットに入れて持ってきてくださいね。ピカピカの仏具は気持ちいいですよ♪

# 帰敬式を受けましょう（ききょうしき）

## 帰敬式とは

私たちは、ひとりで生きていけるほど強くはありません。弱い私を見抜いてくださり、「いつでもあなたとともにある」とはたらいてくださっているのが阿弥陀如来です。

阿弥陀さまに支えられ、励まされながら90年の生涯を生き抜かれた親鸞聖人。

聖人が伝えてくださった「南無阿弥陀仏」を依りどころに生きてゆく第一歩として受けていただく儀式が「帰敬式」です。

## 受けるとどうなる？

帰敬式を受けると、「釋〇〇」という法名をいただきます。ん？法名？いつも身内が亡くなったら住職がつけてくれるアレかい？と思われた方はいらっしゃいますか？そのアレです。本来は亡くなってからいただく名前ではなく、生きているうちにいただくのが本筋です。

さて、法名についている「釋」の文字は、お釈迦さまの弟子（仏弟子）としていただく名前です。

お釈迦様は「仏教」を発見してくださり、私が「仏になれる道」として「南無阿弥陀仏」を伝えてくださいました。

阿弥陀さま（南無阿弥陀仏）は「決してあなたをひとりぼっちにすることはない。」と誓い、すでに私のところへ働いてくださっています。

「私はひとりではなかった」という、よろこび・自覚を新たにする時、ご門主様よりいただく名前が法名です。

いのちが終わってからではなく、生きている「今」受式し、いただく名前が法名です。

## どうすればいい？

帰敬式を受けようと思われたアナタ、まずは住職にご相談ください。詳しく説明させていただきます。

・場所

帰敬式は京都の西本願寺で受式できます。

・時間

帰敬式は1日2回、原則毎日行われています。

時間は、朝のお勤め（6時～）に引き続きと、午後1時30分～（日によっては午後1時～）の2回です。

・お金（御布施）

帰敬式を受式する冥加金（御布施）は、成人の方は1万円、未成年は5千円です。

・法名の内願について

特に希望する法名（文字）がある場合、法名を内願することができます。この場合住職の承諾が必要ですので必ずご相談ください。

なお、別途1万円の冥加金（御布施）が必要です。

## ご注意ください

帰敬式を受ける際は次のことにご注意ください。

・帰敬式を受式して授かる法名は西本願寺のご住職（ご門主）からいただく法名です。お経や聖教から私たちに相応しいお名前を授かりますので、自分の名前の漢字一文字は入っていません。どうしても自分の名前の漢字を入れたい場合は、先の「法名の内願について」をお読みください。

・「帰敬式」は必ず本人が受式しなければいけません。代理の受式はいかなる理由があっても認められません。

・帰敬式の受式は、住職に内緒で行っても受けられますが、必ず帰敬式が行われる時間の1時間前に、西本願寺の「龍虎殿」で受付を済ませてください。

# 西本願寺のページ

ここでは京都西本願寺のご案内をいたします。何かの折に京都へ行かれた際、出来れば本山本願寺を目的に、是非お立ち寄りいただきたいと思います。本願寺では様々な取り組みを行っていますので、気軽に立ち寄っていただければありがたく思います。

## Shinran's Day

毎月16日は親鸞聖人の月命日。西本願寺ではこの日を機縁に多くの方に本願寺とご縁を結んでいただきたいとの願いから各種イベントを開催しています。本願寺へ行かれた際はぜひお立ち寄りください。

①法要（お勤め）親鸞聖人月忌法要10時～
場所：御影堂
②法話（仏様のお話）10時35分～10時55分頃
場所：御影堂
③国宝書院特別案内
16日9時～10時まで受付
龍虎殿で受付
時間11時（法話終了後～12時頃まで）
対象　受付を済ませて法要に参拝した方
④京の文化体験（中止）
予約：不要
時間9時10分～9時45分
場所：お茶所（総合案内所）
※腕輪念珠作り・におい袋作りなどの文化体験
⑤参拝ツアー（中止）
予約：必要
場所
日野誕生院
【親鸞聖人御誕生の地】
角坊
【親鸞聖人ご往生の地】
比叡山延暦寺
【親鸞聖人ご修行の地】
六角堂
【親鸞聖人100日参籠の地】
など
⑥いちろく市（中止）
時間　9時～15時
場所　門前町、御影堂門・阿弥陀堂門周辺

## 西本願寺の常例布教がインターネットで生配信されています

常例布教ってご存じですか？もしかしたら大光寺のご門徒の方では、ご存じない方のほうが多いかもしれません。

常例布教とは、あらゆる機会をご縁として仏さまのお話を聴き、わたしの「いのち」を見つめ直す尊いひとときです。

浄土真宗のみ教えを詳しく、わかりすく、全国の浄土真宗の布教使が定期的にお話をしていることを言います。

京都の西本願寺では、毎日、全国の別院（有名所では東京の築地本願寺・和歌山では鷺森別院）では月に1回～3回行われています。大光寺のような一般寺院では多くても月に1回程度でしょうか。

残念ながら大光寺をはじめとして多くの一般寺院ではこの常例布教を行えておりません。大きな理由の一つとしては経済的な面が大きいかと思います。

大光寺のようにそれほど大きなお寺でもなく、門徒数も少なく、日常でお寺を維持していくことが精一杯のお寺では、布教使の先生にお越しいただいて、お話をしていただくことが非常に困難です。講師の先生への謝礼や交通費、お越しいただく場所によっては宿泊費等が必要になります。私としては住職を継職して以来この常例布教をできないかと思案しておりましたが、実現できないまま今日を迎えております。

京都の西本願寺ではこの常例布教を毎日行っています。

技術の発展に伴い、この常例布教がインターネットで配信されるようになりました。

毎日午後2時から、ユーチューブで配信されていますので、ご門徒の皆様には是非御聴聞いただきたいと思います。左のQRコードを読み取ってご覧ください。

毎月『かがやき』に御法話を寄稿いただいている北海道の名和先生にもお会いできるかもしれません。

# お知らせ

大光寺のホームページをリニューアルしました。まだまだ発展途上の段階ですが、これから徐々にページを増やして様々な情報を発信したいと思います。ゆっくり眺めてください。
HP制作に詳しい方、アドバイスをお願いします！

お寺の山門側にインターフォンを設置しました。これまで山門からお入りいただいた時に呼び出しをしていただく術がなく、わざわざ北側玄関まで呼び出しに来ていただいていましたが、不便さを少しでも解消できたかなと思っています。
お寺にご用の方、法事等でお寺に到着された際はインターフォンでお知らせください。

## 本堂

法事等で本堂を使用する場合、本堂使用冥加金(御布施)として金10,000円のご進納をお願いしています。（大光寺・教楽寺）

## 護持費の納入をお願いいたします

毎年すべてのご門徒様に護持費(10,000円)の納入をお願いしています。お納めいただきました護持費は本堂をはじめとする諸堂宇の維持管理や、仏さまへの御仏飯・お花・お線香等のお供えに充てさせていただきます。何かと厳しい折大変恐縮ですが、ご理解・ご協力賜りますようお願い申し上げます。（大光寺）

## お願い

ご法事等、お参りのお電話をいただく際、日程に比較的余裕をもってご連絡くださいますようお願いいたします。少なくとも希望日の1カ月前を目途に、候補日を2つか3ついただけると大変助かります。職場での勤務調整をしなければいけませんので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

住職直通の携帯電話はコチラ⇒　０９０－７４８８－５７６５

### ご祥月法要のお参りについて

住職を継職してから、月忌参り（常逮夜）を休止しております。

祥月命日（故人の正当のご命日）はお参りさせていただきますので、ご希望の方はお寺までご連絡ください。

**大光寺　0736-42-3055**